



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL 03-3590-5377

FAX 03-3590-5419



No.63

(アジア・オセアニア・サービス・ミーティング)

ゆとりと熱気の第2回AOSM

AA日本20周年記念集会在1995年3月に大宮で開催された前日、まる一日をかけて東京で第1回アジア・オセアニア・サービス・ミーティング(以下AOSM)が開催されました。参加国はニュージーランド、香港、韓国、パヌアツ(南太平洋にあるとても美しい島国です)日本に加え、アメリカ/カナダ常任理事会常任理事、ニューヨークにあるGSO所長、そしてJSOオフィス運営委員も参加しました。そのときは第1回目ということもあり、その話し合いは、今後AOSMをどう進めていくのかという運営的な面に主に向けられました。

先月の3月20、21日に開催された第2回AOSMは、ニュージーランドのオークランド市という、たいへんのどかで美しい都市のメインストリートにある救世軍の会議場が舞台です。参加国は、ニュージーランド、香港、韓国、日本のほかに、タイとオーストラリア、さらにニューヨークGSO所長が加わり、開催日も2日間に及んだため、とても活発な経験の分かち合いが行なわれました。香港は別格として、韓国やタイのAAがまだ全体的なサービス構成をもたないマイナーなAAだとすれば、オーストラリアやニュージーランドのAAは50年以上の歴史をもつAA先進国です。ちょうどその中間にある我が国のAAにとっては、共有できる経験や、将来参考になる話が多く、実り多いミーティングでした。

余談ですが、今回の参加者は、韓国と香港をのぞいた全員がそれぞれ、地元のメンバーの家庭にホームステイしました。オークランドの空港に着いた瞬間から、空港を飛び立つ時間まで、まるまるニュージーランドの仲間たちの生活に触れ、そのAAの生きかたにどっぷりつかって来たわけですが、彼らの暖かく、ゆとりと落ち着きのある、包み込むような対応に、感激極まりない思いをさせていただきました。(外国から来た仲間にも同じことができるかと思ったら、心のスペースも家のスペースもゆとりがなく、とてもあそこまでの対応はできません)。

詳しい最終報告書は、WSM報告書とともに追ってみなさまのお手元にお届けしますが、今回はいろいろ

な場面での印象をまじえながら、全体的な紹介をさせていただきます。

【オープニングから】

まずオープニングのニュージーランドの議長の歓迎のあいさつのなかで、今回の開催までの事務局業務をJSOのスタッフにお願いしたことによる時間的、経済的負担を日本のAAが提供してくれたことに、感謝の気持ちが伝えられました。さらに、第1回開催までに1994年と1995年に東京を訪問した際、日本の仲間たちから受けた歓迎ぶりは、今思い出しても圧倒されるほどの感激だったそうです。

【世界のAAはいま】

続いてニューヨークのGSOの所長の、世界のAAについての報告です。東ヨーロッパの国々におけるAAの発展ぶりに目覚ましい成長があること、例えば10年前にはたったの10グループしかなかったポーランドのAAが現在は1千以上のグループへと大きく発展し、また、東ヨーロッパの各国でサービスオフィスが設立されていることが主に伝えられました。私自身がWSM評議員としてミュンヘンを訪れた1990年は、ちょうどベルリンの壁が取り壊された年でした。そのとき世界の目は東欧に向けられ、AAの目もこれらの国々にどうメッセージを運ぶかに注がれていました。それからたった8年で、これほどまでに東ヨーロッパの国々にAAが定着しようとは予測もつかなかったことだけに、感激はひとしおです。その定着を見た今、世界のAAの目は、アジアに注がれはじめているのだそうです。アジア、南太平洋諸国といったら、人種、言語、宗教、文化それぞれが異なり、その種類は限りないというゾーンなのであります。

【各国の状況】

香港 今年で28周年を迎えた香港AAはひとつのインターグループのもと、伝統の範囲内でマスコミをフルに活用し、学校へも盛んにメッセージに行き、積極的にサービス活動を行なっているものの、新しくやってくる人は西洋人ばかり。中国語を話す香港の地域住民がつかない。現在のAAメンバーも中国語が話せない。現在香港にとどまっている西洋人は、その

ほとんどが商売上の成功者であり、教養も地位もお金もあるという人たちがばかり。そういう西洋人のAAメンバーと、地元でアルコールで苦しんでいる中国人たちとのギャップが、いっそう中国人をAAから遠ざけているという。中国語のAA出版物が発行されているが、神概念の表現等に問題があり、翻訳の壁に突き当たっているところ。

韓国 1982年に韓国語のAAが始まって以来、最初の10年間は目立った動きはなかったが、この4年の間に急速な発展を示し、現在週に62回のミーティングが行なわれている。病院へのメッセージ活動も活発。インターグループ会議も定例で開催されるようになった。だが前回同様、このような会合出席のための経費は参加メンバーの自己負担。韓国AAとしては、経済的にまだまだゆとりがない。

タイ タイの代表はニュージーランドのメンバーで、たびたびバンコクのミーティングを訪れているため、タイのAAのビジネスで承認を受け、参加した。タイのAAも香港同様、西洋人のAAグループの成長ぶりには目を見張るものがあるが、タイ人の社会にはなかなか浸透しない。仏教国であるため神概念が受け入れがたいことや、グループセラピーという方法がタイ人には向いていないなど、多くの壁がある。ビッグブックやリビングソーパーなどのAA出版物がタイ語に訳されているが、タイ人にはあまり読まれていない。ただ、現在、着実にソプラエティを続けているタイ人メンバーがいるので、他の国でも広がった様に、いつかはタイ人のなかにAAが浸透していくことを信じている。

オーストラリア アルコホーリックのためのリハビリ施設や解毒センターに対する国の補助金の打ち切りまたは大幅な減少により、これまで施設やセンターに送られていたアルコホーリックがAAにつながってくる道筋が変わることが予想され、メッセージや広報活動の再考が望まれていること。セントラルオフィスを中心に地域独自のサービス構成が各地ばらばらに行われていたが、全国をひとつのサービス構成にする流れがやっと定着しつつあること。また、評議会の決定で、AA紹介パンフレットを15カ国語（フィリピン、広東語、中国語等）に翻訳して発行する計画が進められている。

ニュージーランド 全国で390グループが登録されているなかで、1割の39が刑務所内グループであること。刑務所にメッセージを運ぶ際心掛けているのは、なかに入っている人に合うような刑務所の経験の話をするというよりはむしろ、AAのホームグループの雰囲気や大切にして、AA本来の良さを伝えることを大事にしていること。メンバーシップ調査は定期的に行っているが、AA内よりも、A

A外の関係機関やメディアへの広報活動に大変役立っていること。

日本 常任理事会ができて評議会がスタートしたこと。ニュージーランドのメンバーによる東京でのワークショップがきっかけで矯正施設へのメッセージ活動にはずみがついたこと。1995年にはJSOが経済的危機におちいったが、リストラとメンバーやグループの支援により乗り越えることができたこと。自助グループへの理解が社会的に広まりつつあること、等々。

インド 代表者をニュージーランドに派遣する経済的な余裕はないということで、報告書と資料が届きました。インドのAA誕生は1957年にさかのぼる。インド駐在になったカナダ人がもうひとりのアルコホーリックを求めて新聞広告を出したのが発端。現在325のグループがある。AA出版物は国内の10種類の言語に翻訳されているが、まだまだ全部の言語をカバーしきれない。ミーティングも、いろいろなインド国内の言葉（たとえば英語、ヒンディ、マラーティー、コーンカニー）が混じって分かち合われる不便さがある。出版活動のほかに広報活動にも積極的で、駅やバスターミナル、電車やバスの中にAAのポスターを貼っている。

【ポスターとアルコール】

それらのポスターも添付されて送られてきました。とてもシンプルなポスターで各国の参加者に好評でした。なかに一枚、「アルコールは病気です。それは多くの病気を引き起こします」とあり、身体的にも社会的にもどのような影響をもたらすかということが、一目でわかるポスターがあったのですが、さっそく、ニューヨークのGSO所長から、「アルコールのことを広報するのはAAのやることではない。AAはアルコールの経験を伝えるだけだ」という横やり（失礼！）いや、指摘がなされました。

それ以外のポスターは我が国でも参考にできるよいものだと思います。ポスター作成計画のある地域のかたは、どうぞご連絡ください。コピーをお送りします。

【国と国とのスポンサーシップと情報センター】

インドのように、AOSMには出席したいが、経済的に不可能だという国々にAOSMとしてどのような援助ができるかという話し合いが行なわれましたが、AOSMとして支援するというより、国と国とのスポンサーシップを取りながらの個別の援助が大切であることが強調されました。ではどの国がどの国とスポンサーシップをとるかという話になり、日本からはシベリア、カムチャツカ、モンゴルに目を向けてみたいという発言がありました。その方面に関して何らかの情報をお待ちのかたはご連絡ください。

また、アジア、オセアニアのゾーンのどこでAAが活動しているかという情報は、現在のところニューヨ

ークにあるG S O経由で入手しているのですが、これを機会にオーストラリアに情報センターを置き、このゾーン内のA Aの情報をすべてそちらに集める決定がなされました。これらのゾーンの旅行先でA Aの情報を得た方はお知らせください。

【インターネット】

A Aでもインターネットを利用した動きが世界的に見られますが、インターネットによる情報はあくまでも広報活動に止るべきだということが強調されました。個人にまつわる情報があったという間に世界中を巡った苦い経験がG S O所長から伝えられました。

【2年後にオーストラリアのシドニーで】

開催期間が2日間になり、参加国も増え、第1回目よりもかなり突っ込んだ分かち合いができた今回のA O S Mでしたが、1回目の参加者から、東京での熱気にあふれた会議はとても印象的で、決して忘れられないといわれ、うれしくなりました。

次回は2年後にオーストラリアのシドニーで開催されます。チェアパーソンはオーストラリアの評議員を退任するボブ。事務局は引き続きJ S Oが引き受けることになりました。

【蛇足ですがアノニシティとサービスの責任】

オーストラリアの評議会報告書を頂いてきたのです

が、そのなかにA O S M評議員立候補者のリストのページがあって、ひとりひとりの住所、氏名、電話番号(自宅と職場)、生年月日、ソブラエティを得た日、健康状態、学歴、A Aでの経歴、A A外の活動等がすべて自筆で書かれた履歴書が公表されていて、もうびっくりしてしまいました。一国の代表者としてサービスを担う責任を負っているからには、そこまで公表しなければ議決権のある人が票を投じることができないのでしょうか。立候補者も15年から40年のソブラエティ。50年以上のA Aの歴史を持つ国だからこそできることなのかもしれません。

【最後に】

ホームステイ先のA Aの仲間から言われたことを最後に付け加えたいと思います。「A Aの活動はとても大事なことだ。でも全生活をA Aだけにしてしまうのは、やはりいびつだと思う。大切なのは、A A 回復とサービス、仕事、家庭、地域社会活動といったもののバランスなんだ。バランスだよ。ところであなたはA Aの仕事以外にも何か楽しんだり、活動していますか?」

ニュージーランドのA Aの仲間たちのゆとりあるプログラムに触れた6日間でした。

A O S M事務局 J S O山本

全国オフィススタッフ会議開催

事務局担当 東北セントラルオフィス

日本中のA Aグループおよびメンバーの献金と献身により、1984年1月に関西、7月長崎、88年鹿児島にセントラルオフィス開設。それらが現在の関西C O、九州沖縄C Oへと発展。翌89年中部北陸C O。90年には東北C Oと中四国C Oが誕生。さらに、地域の社会資源としてのA Aの役割の拡大にともない1993年に関東甲信越C Oの設立を見、今日に至っています。

それぞれのC Oは支援する地域のグループ、メンバーの付託に応える業務を主とし活動していますが、同時に地域、地区委員会と連携しA A全体サービスの一翼を担うとともに、社会資源としてのA Aを地域社会に伝える役割をも担ってきました。

J S Oは日本全体の情報基地ですが、各地域C Oはそれぞれの地域における、より一層のきめ細かさを求められる情報の受信/発信基地として、その機能が今後ますます重要になるものと考えられます。

以上の観点から、G S M開催時から第1回全国評議

会にいたるまで、そのプログラムのなかでオフィススタッフ部門の会議が同時に行なわれてきました。しかし、サービスマニュアルによって位置づけられるセントラルオフィスと評議会とは、全体サービスのなかでそれぞれが異なった役割をもつ体系の中にあり、その運営は相互にかかわりあいながら、自立した関係にあります。

また、情報の多様化、迅速化にともない、地域、地区内の変化には目を見張るものがあります。

セントラルオフィスの通常業務はボランティアの仲間をはじめ、多くのメンバーの助力で消化していますが、マニュアル化できない業務、その場で判断していかなければならない業務が日々その量を増しているのも事実です。

以上のことから、第1回全国評議会で開催されたC Oスタッフ会議の席上、各スタッフの間で次のような意見交換が行なわれました。

* G S M評議員とC O間の意志の疎通がうまくはか

られており、情報密度が高まり、評議員のサポートとしての役割が小さくなったこと。

* G S M時代の反省として、評議会出席の必要性は認めるが、スタッフ会議の分かち合いの時間が短く、十分な討議ができないまま不安や疑問点を残して毎回会議を終了していること。

* 仕事内容や地域の実情を話し合い、相互に情報交換をすることで、より効果的なオフィス運営を目指す時期にあること。

* C O職員はG S M時代にはその編成メンバーとして、議決権はなくても発言権は与えられていた。しかし全国評議会が発足し、評議会構成メンバーとは異なる立場にあるため、評議会での発言権がなくなったこと。

等々の意見が出され、その結果、次のような結論を得ました。

* C Oスタッフを中心としたC Oスタッフ会議への移行。

* 評議会への参加は各地域の判断に任せ、時期を変えてC Oスタッフ会議を独自に開催。

以上を評議会最終日に提出し、了承を受け、1997年度オフィススタッフ会議開催を次の通り決定しました。

* 開催時期を5月とし、場所を東北とする(事務局東北C O)。

* 負担金については各地域の同意を得る。
* 現行の評議会参加分担金制度を活用する。

(上記*印は第1回全国評議会報告を参照しました)

これらの議事決定を受け、各C Oスタッフが地域に持ち帰り、グループ、メンバーに支援をお願いすることとなりました。

おかげさまで地域グループ、メンバーの暖かいご支援とご協力により、下記日程にて第1回オフィススタ

ッフ会議を宮城県松島町にて開催する運びとなりました。本紙上をお借りし、ここにご報告します。

第1回会議ということもあり、「セントラルオフィスの役割」をテーマに、オフィスのスタッフとして、AAの伝統に基づき、「今日一日オフィスのスタッフとしてやるべきこと、できることは」を地道に話し合い、経験の分かち合いの場にしたいと考えています。

なお今回の会議にはJ S O職員の参加と、まだセントラルオフィスを開設していない北海道地域のメンバーの参加もあり、地域を越えた話し合いができることと期待しています。

セントラルオフィスの役割、サービスの在り方など、話し合うべき問題は山積みです。今回の会議はその第一歩であり、経験の分かち合いによる出発点であるとと考えています。

今後2回、3回と回を重ねることによって内容の充実を図っていくと同時に、オフィスのサービス向上につなげたいと考えております。

グループ、メンバー各位のご支援とご協力に、オフィススタッフ一同、心から感謝いたします。

記

- 1. 開催月日 1997年5月14日(水)~15日(木)
- 1. 開催場所 ホテル「五大堂」宮城県宮城郡松島町
- 1. テーマ “セントラルオフィスの役割 今日一日、オフィススタッフとしてできること、やるべきことは”

- 1. 参加者 九州沖縄C O, 中四国C O, 関西C O, 中部北陸C O, 関東甲信越C O, 東北C O, J S O各職員。北海道地域メンバーを含む関係メンバーおよび事務局。

☆新刊案内☆

アルコール以外の問題 ビル・W著
薬物依存等アルコール以外の問題で苦しんでAAにやって来た人にどう向き合うのか。 100円

AA日本サービスガイド
日本のAAに合ったサービスマニュアルが完成しました。 600円



AAメンバーシップ調査のアンケートにご協力をお願いします

【目的】 AAメンバーがAAの構成の特徴を知り、グループにつながる新しいメンバーへの対応や、メッセージ活動に活かすため。AAに対する偏見や誤解をなくし、AAの活動が専門家や一般の人達から信頼され、さらなる利用をしていただくため。

【記入期間】 5月25日から6月7日まで
無記名で記入し、封筒に入れ閉じてから、グループの代議員に渡してください。協力するか否かは本人の自由です。どうぞよろしくをお願いします。

常任理事会広報委員会